



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久(APIR 研究統括)

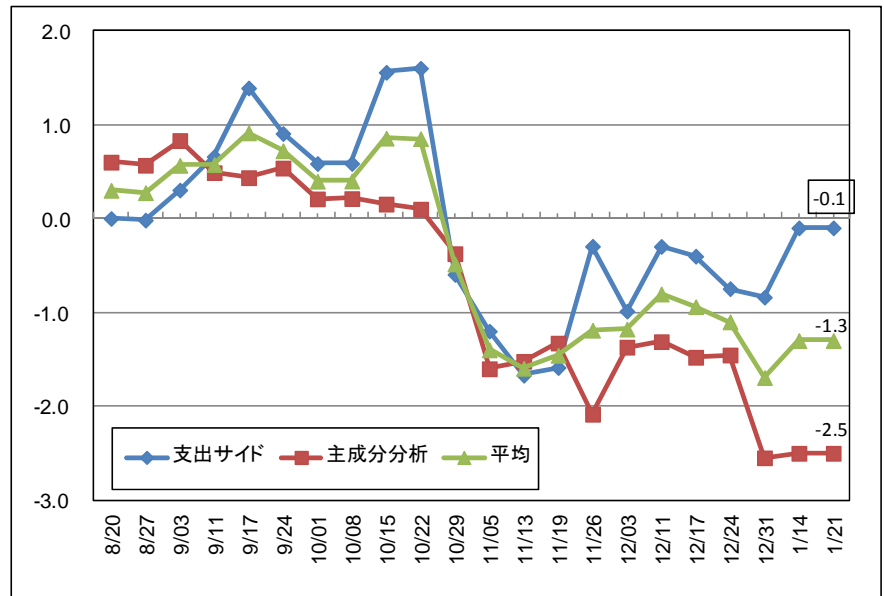
内容に関するお問い合わせは下記まで  
e-mail:inada-y@apir.or.jp

# 日本経済(週次)予測(2013年1月21日)

## ポイント

- ▶先週(1/14-1/18)は、12月の消費動向調査、国内企業物価指数、輸出入物価指数、11月の鉱工業生産指数(確報値)、第3次産業活動指数、情報サービス業売上高、機械受注統計及び建設総合統計が更新された。
- ▶先週更新された月次データは、民間企業設備、民間企業在庫品増減、政府最終消費支出及び公的固定資本形成の予測に影響を与える。
- ▶今週のCQM(支出サイド)は、10-12月期の実質GDP成長率を、内需は小幅拡大するが、純輸出は小幅縮小するため前期比年率-0.1%と予測する。先週の予測から横ばい。
- ▶一方、1月16日に発表された民間エコノミストのコンセンサス予測は-0.55%である。
- ▶10-12月期の2/3の基礎月次データが更新され、今後12月の鉱工業生産指数の改善が期待される中、今週発表される12月の貿易統計の結果が同期の経済の予測動向にとって決定的となる。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率  
2012Q4 (%、前期比年率換算)



## <12月の鉱工業生産指数の改善が期待される中、今週発表される12月の貿易統計の結果が10-12月期経済の予測動向にとって決定的>

先週(1/14-1/18)は、12月の消費動向調査、国内企業物価指数、輸出入物価指数、11月の鉱工業生産指数(確報値)、第3次産業活動指数、情報サービス業売上高、機械受注統計及び建設総合統計が更新された。先週更新された月次データは、民間企業設備、民間企業在庫品増減、政府最終消費支出及び公的固定資本形成の予測に影響を与える。

11月の鉱工業生産指数確報値は速報値に比して、資本財出荷指数が小幅上方修正、最終需要財在庫指数が小幅下方修正された。結果、10-12月期の実質民間企業設備の予測値は小幅の上方修正、実質民間企業在庫品増減の予測値は小幅の下方修正となった。

11月の公務等活動指数は事前予測より下方修正、公共工事は事前予測より上方修正された。この結果、10-12月期の実質政府最終消費支出の予測値は下方修正された(前期比+0.8%→同+0.7%)。一方、同期の実質公的固定資本形成の予測値は上方修正された(前期比-0.2%→同+1.3%)。

今週のCQM(支出サイド)は、10-12月期の実質GDP成長率を、内需は小幅拡大するが、純輸出は小幅縮小するため前期比年率-0.1%と予測。一方、1月16日に発表されたコンセンサス予測(ESPフォーキャスト調査)は-0.55%である。GDP項目の予測値が上方・下方修正が相並んだため、先週の予測から横ばい。また1-3月期は、純輸出の減少幅が縮小し内需の増加幅が拡大するため、同+2.5%と予測する。10-12月期の2/3の基礎月次データが更新され、12月の鉱工業生産指数の改善が期待される中、今週発表される12月の貿易統計の結果が同期の予測動向にとって決定的となる。

- ・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
- ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
- ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 [contact@apir.or.jp](mailto:contact@apir.or.jp) 06-6441-0550